

# さんぽ

認定NPO法人 さいたまNPOセンター ニュース

URL→ [www.sa-npo.org](http://www.sa-npo.org)

2022.12

105

**S** 特集 ●…… P2～3  
政令指定都市初、「さいたま市ケアラー支援条例」制定 第2弾  
「ケアラー支援条例」制定を求めた市民らの足取りをたどる

**T**

**N** さいたまNPOセンターの活動 ●…… P4  
「孤独・孤立」を防ぐネットワークづくりを  
～ネットワークSAITAMA 21 運動主催 地域セミナー  
LINEを覚えて連絡を楽しく、楽々に

**E**

**N** Close up ●…… P5  
「夜の世界」で働くシングルマザーを支援！  
—— ハビママメーカープロジェクト

**T**

**O** 市民活動NEWS あの街この町 ●…… P6-7  
越谷/三芳/さいたま/本庄

**C** 事務局だより ●…… P8

まちで発見した変なもの  
面白いものを報告します！

じろじろ隊が  
おさんぽ！

自由がいちばん！  
によろによろ～ん  
川口市西立野



——これ何に見える？

「マンモスの牙！」  
「たき火の炎！」  
「縄文時代の火焰土器！」  
「なまはげ大暴れ！」

などと、人それぞれの見方ができるこの木は、川口市の西福寺にあるチャボヒバ



という樹木である。木の周りを回ると、見え方がどんどん変わって面白い。普通はきれいな形に剪定するのでこんなふうにはならないらしく、かなり珍しいかも。三重塔や百体観音で有名な西福寺に行ったら、ぜひこの自由奔放に育ったチャボヒバも見てほしい。

# 政令指定都市で全国初「さいたま市ケアラー支援条例」、第2弾 「ケアラー支援条例」制定を求めた 市民らの足取りをたどる

政令指定都市で全国初となった「さいたま市ケアラー支援条例」、前号では条例の内容を述べた。今号では、条例制定に至るまでの、さいたまNPOセンター、市長・市役所、議会の足跡をたどる。今後、「ケアラー支援条例制定」に取り組みたいと考えている人たちの参考になれば幸いである。(さいたまNPOセンター 堀越栄子)

## ケアラー支援条例前史

条例化前夜、さいたま市では、介護者支援を施策化しようという動きが市民と行政双方にあった。2009年5月に当選した清水勇人さいたま市長のマニフェスト「さいたま市民 しあわせ倍増計画」には、「介護する人への支援体制を充実します」と書かれていた。これはさいたま市の「しあわせ倍増プラン2009 絆」<sup>1</sup>「31 介護する人への支援体制を充実します」<sup>2</sup>「33-2 平成24年度末までに、市内すべての地域包括支援センターで介護者支援のための介護者サロンを実施します」に反映された。

同じ年の11月、「さいたま市認知症サポーター・フォローアップセミナー」が5回にわたって開催された。さいたま市が公募した「市民提案型協働モデル事業」に、さいたまNPOセンターが提案して、高齢福祉課との「協働」で実施したものだ。おりしも、7・8月に市内で、介護疲れや認知症の無理解が原因と思われる家族間の殺人事件が発生し、セミナーは認知症地域支援を入り口としながらも、介護者への支援に重きを置くものになった。

セミナー第5回目は、「市民と地域包括支援センターがともにつくる介護者支援」がテーマとなり、受講者が、市民の知恵と経験を活かし、市内25(当時)の地域包括支援センターと協力して介護者サロンをつくり、介護に

たずさわる人を支える活動に一步踏み出すことが目指された。

2011年8月にさいたま市は、第5期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を策定するため、事業者<sup>\*1</sup>アンケートを行った。そのアンケート調査の中に、日頃感じている家族等介護者の介護力についての質問が盛り込まれた。

その結果、「家族等の介護力について不十分と考える世帯がある」と、地域包括支援センターの88.5%、居宅介護支援事業所の78.0%、訪問看護事業所の74.1%が回答した。その後この調査は、第6～8期の計画策定の前に実施されている(訪問看護事業所は除く)。これによって一定程度、高齢者を介護する介護者の状態が把握された。しかし、計画に盛り込まれた介護者の健康調査などは、まだ実施されていない。

## 条例制定が政治過程にあがった

一方、さいたま市議会では、2018年9月定例会で、稲川智美議員がケアラー支援条例の制定について質問したことで「条例」が政治過程にあがったといえる。

そして、2020年9月、市民団体<sup>\*2</sup>が「令和3年度さいたま市においてケ

アラール支援を進めるための予算要望」をさいたま市議会の各会派<sup>\*3</sup>に提出した。要望した項目は、①ケアラー支援専門部署の立ち上げ、②ケアラーの実態等調査、③ケアラー支援専門相談窓口の開設、④ケアラー支援のための会議設置、⑤市民へのケアラー支援啓発実施、⑥その他のケアラー支援策の検討などである。各会派は真摯に対応してくれた。

続いて、10月24日には、同じメンバーで、清水市長に、「(要望書)さいたま市におけるケアラー支援の更なる充実をお願いします」を手渡し、意見交換を行った。

市長には、「さいたま市は、各地域包括支援センターに介護者サロンを設置する等の全国に先駆けた取り組みを行っているが、ケアラーの実態把握、ケアラー支援を検討する市民参加の場、ケアラーがいつでも相談出来る窓口の設置、その他の支援策等、まだまだケアラー支援として取り組むべき課題が残っていること」と「ケアラーの現状と要望の趣旨」を伝え、8項

\*2 一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事 堀越栄子(さいたま市在住)/公益社団法人認知症の人と家族の会埼玉支部代表世話人 花俣ふみ代(同上)/介護者支援ほっと♡おみや代表 志村照子(同上)

\*3 民主改革さいたま市議団、自由民主党真政さいたま市議団、公明党さいたま市議会議員団、自由民主党さいたま市議会議員団、日本共産党さいたま市議会議員団、無所属議員

さいたま市が制作・配布している、ケアラー・ヤングケアラー啓発パンフレットでは、どんなことを担っている人が「ケアラー」「ヤングケアラー」であるかを、わかりやすくイラストで示している。

知っていますか？  
ケアラー・ヤングケアラー

ケアラーとは、高齢、障害、病気などで日常生活で援助を必要としている家族や身近な人に対して、介護や看護、日常生活上のサポートなどを行う人のこと。特に高齢者ケアラーのことを「ヤングケアラー」といいます。

さいたま市は、令和4年7月1日に政令指定都市となる「さいたま市ケアラー支援条例」を施行しました。  
ケアラー・ヤングケアラーへの支援を推進し、自分らしく暮らす文化的な生活を送ることが出来る地域社会の実現を目指します。

さいたま市

こんな人がケアラーです

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

ケアラー・ヤングケアラー支援のご案内

一人ですぐに / 相談してください / 支援が受けたい / 援助してほしい / 介護や看護に不安を感じている

あなたのお悩みは誰かしている / ケアラーはいませんが / 介護や看護に不安を感じている / 援助してほしい / 介護や看護に不安を感じている

家族の中で役割が重なるケアや病気の子供と暮らしながら / 介護や看護に不安を感じている / 援助してほしい / 介護や看護に不安を感じている

さいたま市ケアラー支援条例

目について要望した。各会派に要望した6項目に、⑦さいたま市ケアラー支援条例の制定、⑧令和3年度ケアラー支援を進めるための予算の実現と中期の展望、を加えている。

### 条例策定が市長選マニフェストに

清水市長は4期目の当選を果たし、市長選のマニフェストにはケアラー支援条例の制定とヤングケアラー支援の強化を掲げ、6月議会の所信表明で、条例制定についても触れた。2021年9月、市民団体は前回の3者に、さいたまNPOセンターも加え、「(要望書)ケアラー支援条例策定と実効性のあるケアラー支援施策の実施をお願いします」を、市長に手渡した。

内容は、ヤングケアラーも含めた全てのケアラーを対象とする条例にすること、ケアラー支援施策実施にかかわる市民参加、ケアラー支援に関する横断的・専門的な部署の新設、ケアラー支援拠点の創設、施策の拠り所となる予算の確保、を求めるものだ。

なお、2021年度、2022年度の各会派からの「予算編成に対する要望」に、ケアラー支援の項目を盛り込んだのは、民主改革さいたま市議団、さいたま市議会自由民主党議員団(旧自由民主党真政さいたま市議団)、公明党さいたま市議会議員団であった。

### 市民と議会の協働が実現

たくさんの議員が議会や委員会で質問した。市民団体の声に耳を傾け、勉強した結果である。会派を問わず、「議員にとってもやりがいのある活動であった」と、制定後、お礼に回った時に言われた。これが市民と議会と

の「協働」だと実感している。

さいたま市ケアラー支援条例は、2022年7月1日に、成立・公布・施行された。そして、職員への研修や

パンフレットづくりが始まっている。政令指定都市のトップバッターとしてどんなケアラー支援施策が飛び出すか、見守っていききたいと思う。

## ケアラー支援条例への期待

# 認知症の人の家族が求める支援を

(公社) 認知症の人と家族の会  
埼玉支部代表 花俣ふみ代



今年度、認知症の人と家族の会では、会の活動の毎年テーマの一つとして「認知症の人の介護家族を支援する社会的制度」を考えてきました。

オンラインにより通算10回開催した意見交換会において、介護・真ただ中の介護者からは、「一生懸命良い介護をしたい人もいれば、嫌々ながら仕方なくやっている人もいる事を分かって欲しい」「介護をしない選択肢を示せる制度作りは、難しい課題がある」などの意見があり、一方でそれを受容できる社会を目指すことは介護家族支援のひとつであることも確認できました。

様々な家族のあり様、認知症の人との関係性があり、さらには介護の担い手が不足する中、

介護状況や介護者の意識も複雑になったといえます。「認知症本人への支援こそが家族への支援になる」「家族への支援は本人の尊厳につながる」という意見からも認知症の人と介護家族がともに生きている姿が伺えるところです。家族同士、本人同士の励ましあい、助け合いという活動の原点としての“ピアサポート”に加え、認知症特有の状況を家族だけではなく、地域や社会とシェアしていくことが求められます。「さいたま市ケアラー支援条例」が、認知症の人も、認知症の人の家族も、その人たちの支援者も安穩に過ごすことができる、そんな未来を描きつつ、その実現への大きな一歩となることを切に願っています。

# 本部事務所の活動

## 「孤独・孤立」を防ぐネットワークづくりを ～ネットワークSAITAMA21運動主催 地域セミナー

コロナ禍で高まった「孤独・孤立」をテーマに

政府の調査ではコロナ禍を反映して、2020年の自殺者数は21,081人、そのうち女性の自殺者は7,026人で、前年より935人も増加している。また児童・生徒の自殺は499人で前年より100人増えている。DV相談件数は前年の1.6倍である。非正規でサービス業に多くの女性が就労しているため職を失った女性が多く、「女性の貧困」が大きな問題となっている。

このような中、ネット21運動では「孤独・孤立」を地域セミナーのテーマに決めた。

### 大宮で35人、川越で38人の参加

10月2日（大宮レイボックホール）、15日（ウエスタ川越）で「孤独・孤立を防ぐネットワークづくり」と題して地域セミナーが開催された。

出席者数は大宮会場ではNPO・市民16人、組合は16人で、スタッフ合

わせて35名、川越会場はNPO・市民18人、組合11人で、スタッフ合わせて38人、と組合側の参加者が前年度より少なかった。

### 現状報告とワーク・発表

内容は村田恵子による「孤独・孤立」の現状報告と、3つのNPOの「孤独・孤立に係る活動のプレゼン」（各15分間）、ワークショップの構成で実施した。埼玉県福祉政策課、地域包括ケア課の職員が、各会場に2人ずつ参加した。埼玉県では県単位での「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」の設置を目指しており、参考になったと思われる。

大宮会場では「ほっと・おおみや」がケアラーサロンの様子を、「冒険あそび場たねの会」が孤立した子育ての問題を、「コンパスナビ」は養護施設を退所してからの若者の孤立について発表した。

川越会場では、「LGBTのカフェ」を主宰する「NPO法人チーム東松山」のボランティアスタッフの発表があった。また、子どもの学習支援、パントリー事業を行っている「チームひだまり」、DV問題で活動する



熱心な意見交換が行われた川越でのワーク

「NPO法人パープルネット」の発表からは、草の根のNPOが人々をつないでいる現状がわかった。

アンケートでは、「孤独・孤立の感じ方は、人によって違う。地域のあり方、行政への提言など、今後、この課題にどう取りくんで行ったらよいか、ワークショップでいろいろ考える機会が得られた」という感想があった。市民の立場で参加した人は「思っていたより交流や笑いがあり、おどろきました。労働組合の活動についても興味がわいた」と書いていた。

NPOと組合の連携は毎年、顔ぶれが違うので、毎年、一からの交流が始まる。協働に結びついた事例もあるが、まだ少ない。「孤独・孤立」問題など一緒に取り組んでいける事例を今後も開拓していきたい。

（村田恵子）



和やかな笑いにつつまれた大宮会場でのワーク発表

## LINE を覚えて連絡を楽しく、楽々に

県内各地のケアラーズサロンでは、新型コロナ禍でスタッフ間の連絡も途切れがち。またケアラーさんたちがどうしているのか心配なときもあります。そこでスマホやパソコンを活用した情報網の構築を目指して、「LINE」&「Zoom」講座を（独法）福祉

医療機構の助成を受けてスタッフやケアラーを対象に開催中です。志木市、草加市などで4回実施しました。参加者のペースに合わせてゆっくり少人数で行っています。



# 「夜の世界」で働くシングルマザーを支援！

## ～ハピママメーカープロジェクト

「夜の世界」いわゆる「風俗」や「キャバクラ」等で働く女性たちの中でも、子供を育てているシングルマザーを主に支援している団体がある。その活動現場を訪れた。(村田恵子)

### 立川でも活動する理由

訪問したのは立川駅に近い貸会議室。「立川で活動をするのは実は初めてです。いつもは川口市内で食料品や生活用品を配っているのですが、メンバーが立川でもしたいというので、トライしてみました」と代表の石川菜摘さんは語る。この会議室で、申し込みのあった2家族を待つという。テーブルの上はカップラーメンなどの食料品が並べられている。

立川での活動を提案したAさんはハピママメーカープロジェクトのことをLINEのグループチャットで知って一緒に活動するようになった。

「私は風俗関係の仕事を一通りやってきて、今は結婚して育児をしています。性的被害を受けて、相談に行くところでも侮辱されて2次被害にあう経験もしました。ここ立川駅周辺には『人妻サロン』などのデリヘルがちょっと調べただけでも16店あり、そこで働く女性は合わせると数百人はくだらないと思います。彼女たちは個人事業主の扱いですが、時給に換算したら最低賃金にも満たない場合もしばしばです。新型コロナ禍の中で一番困っているのは子供を抱えて働いているそういった女性たちです」とAさんは語る。

石川さんたちは2014年ごろから夜の世界で働く女性たちが孤立をしているので横につながりたいと、こども食堂のようなことを始めたという。

石川さんが「夜の世界」に入ったのは「サバイブ(生き残る)」のためだったという。

「立川で子供をもった30代のデリヘル女性が19歳の男にラブホテルで殺される事件がありました。デリヘル嬢は高額な見返りを得ているのだから、身の危険性があっても当然、という意見が大新聞に堂々と掲載されました。明らかに偏見があります」とAさん。

石川さんは「『風俗』で働く事情は様々です。自分に

合っていると思っている人もいます。しかし、大切なのは他の職業と同じように自らが考え、選択していける環境を整えることだと思います。弁護士や社会福祉士などと連携をとって、公的な支援を受けにくい彼女たちの相談にのっています」と語る。

単に「新型コロナで収入減となって困窮している」という問題とは別に差別と偏見の問題が底にある。

### LINEで268人とつながって

川口市内で行っている食料品などの配布は2020年5月からすでに10回を超えた。メンバーに大学教員がいて、その紹介で医療生協さいたまさんの力を借りて実施している。場所は非公開。SNS等で告知し、申し込み予約者に配布する。LINEには268人の登録があるという。

「申込者がなぜ夜の世界の女性だとわかるのですか」と聞くと、働いている場所などを聞けば、大体、どの形態の風俗なのかわかるという。

「初回は15世帯でした。厳しい緊張した顔で来る人がいましたが、何回か来るうちに友達感覚になってきています。最高60世帯に配ったこともありましたが、30世帯ぐらいが私たちの団体にとって適正な数ですね。でも遠く九州等から申し込んでくる人もいます。事情を聞いて郵送し、近くのフードパントリーの団体を紹介しますが、偏見が怖くて近くの団体には行きにくいといいます」と石川さん。資金はいろいろな助成団体に申請して、今のところ足りているという。

午後4時ごろ取りに来た女性は子ども2人と自分の母親を伴っていた。カップラーメンはかさばるので、持参した袋はいっぱいになった。「もう、すぐ(なくなるん)ですよ」と語る女性を見送りながら、「施し」でもない、「福祉」でもない、「おすそわけ」の言葉が頭に浮かんだ。



一世帯分の配布品

### DATA

ハピママメーカープロジェクト

<https://expressyourself.jp/nightwork/>



## 越谷 越谷の夏 1300名の市民が楽しむ 第17回平和を願う音楽と灯ろう流しの夕べ

8月6日、「第17回平和を願う音楽と灯ろう流しの夕べ」が開催されました。コロナ禍で中止が続き3年ぶりの開催です。会場は中央市民会館の芝生広場と葛西用水。

連日の猛暑とは違って当日は心地よい風もあり、夕涼みと「灯ろう流し」



灯ろうに願いを書く

にはとても良い日になりました。コロナ禍で外出に気を使う中、身近でこのような催しがあることに関心を寄せられたのか、1300名と予想以上の人が参加してくれました。

特に小さな子供連れの家族が多く、お父さんと一緒に「灯ろう」に絵を描いたり、思いを込めた言葉を書いていました。流された「灯ろう」は葛西用水の川面に浮かび、幻想的な越谷の夏を演出しました。

芝生広場ではプロ歌手の大岩ファミリーコンサートやフラダンス、素敵なピアノ演奏を楽しみました。ある若い子供連れの夫婦は、このような企画に「感謝したい」と言ってくれました。平和の尊さと考える機会になって貰えたら嬉しい限りです。



コロナ禍で模擬店出店が出来なかったことなど残念な点もありましたが、多くの市民に楽しんでもらったことに安堵しています。今や越谷の夏の風物詩になった「灯ろう流しの夕べ」をこれからも続けていきたいと思っています。後援は越谷市、東京新聞、埼玉新聞、東武よみうり新聞でした。(石山博)

第17回 平和を願う音楽と灯ろう流しの夕べ 実行委員会  
連絡先：048-964-7511

## 三芳 学校以外の無償の学びの場を提供

NPO法人 街のひろば

私達は三芳町在住の方を対象に、外国にルーツを持つ家庭や、ひとり親、生活困窮家庭や不登校の子どもたちに寄り添った無償の学習支援をしております。令和2年春の第1回の緊急事態宣言下では、公立学校も休校となり、公共施設での活動が制限され、子どもたちの学習活動がストップしてしまう可能性が訪れましたが、スタッフ同士で資金を出し合い、法人の拠点となる小さな

アパートを借り、今日まで活動を途切れさせることなく支援を継続することができました。その際は、子供たちだけでなく、親との関係性を育むことにより、地域のコミュニティから孤立しがちな家庭を社会と結びつけることも大事にしています。

私達は、学力向上のためのスペシャリストではありませんので、お子様の成績アップを約束する場所ではありませんが、子ども達それぞれが抱える問題について、寄り添い、共に考えながら、ひとりで学習を続けて行くことに不安を抱えている子ども達に、わかる喜びや、安心して学べる環境づくりをめざしています。現在も、生徒さんの受け入れを継



続しておりますので、まずはお気軽にお問い合わせいただければと思います。ご事情があつて通学が難しい生徒さんに関しては、ZOOMを使ったオンライン学習にも対応しております。

(理事長 松浦康介)

NPO法人 街のひろば  
machinohiroba@gmail.com  
<https://machinohiroba.com>



## 「こども食堂フォーラム」に200人集まりました NPO法人 新座子育てネットワーク

**新** 座子育てネットワークは、1999年発足の県内子ども子育て支援NPOの草分け団体のひとつ。地元新座市での活動のみならず、埼玉県との連携・協働・受託実績も多く、県外・政府・企業とも子ども子育ての課題を共有しながら、NPO活動を重ねてきました。

「埼玉県子供の居場所づくり推進事業」の事務局を令和元年度から担い、県が掲げる県内800ヵ所の子供の居場所づくりの推進に、アドバイザー派遣や相談会、セミナー、実態調査など、実践者をはじめ県内の自治体や



パネルディスカッションの様子

社会福祉協議会の皆さまと連携しています。

11月には約200人の参加者とともに埼玉会館小ホールで、「こども食堂フォーラム」を開催しました。

ホールでは、全国のこども食堂の旗振り役（栗林知絵子氏）の基調講演、県内実践の事例発表、子育てNPOの中間支援に長年取り組んできたコーディネーター（米田佐知子氏）の進行によるパネルディスカッションが行われました。会場からの感嘆の声や拍手が聞こえ、子供の居場所づくり推進への機運が高まりました。

ロビーでは、県内外の中間支援団体とネットワークの情報パネル展示や県内の子供の居場所からの資料提供、事務局が常駐する相談ブースを設けました。

昨年のフォーラムはコロナ禍の影響でオンライン開催となり、今年は

念願のリアル開催が実現しました。感染対策を講じつつ、顔の見える関係性づくりと情報交流を促進するために、資料集を作成し、登壇者資料に加え県内活動団体からのメッセージなども掲載しました。

参加者アンケートの評価も高く、フォーラムを通してミッションを共有する同志の存在を改めて認識し、学びの機会を超えたエンパワーメントの機会が提供できたようです。

（越前屋睦子）



ホワイエでのパネル展示に目をとめる人々

NPO法人 新座子育てネットワーク  
URL <https://www.ccn.niiza-ksdt.com/>



## 3年ぶりの「市民講座」に95人が参加

介護サポーターズクラブ本庄

**私** たち「介護サポーターズクラブ本庄」は、平成25年から、毎年1回「市民講座」を開催してきました。コロナ禍で令和2・3年は断念し、3年ぶり、10月30日に児玉文化会館で開催することができました。講師に堀越栄子氏・村田恵子氏を招き、「ケアラー・ヤングケアラーへの理解と支援の必要性」をテーマに行いました。

堀越先生は134ページの資料を基に、ケアラー・ヤングケアラーとはどのような人なのか、その人たちが抱える課題や現状、ケアラー支援がなぜ必要なのか、支援がないとどのようなリスクにつながるか、市民や行政で何ができるか等を80分間休憩なしで話して頂きました。

村田さんには、当事者交流の場「ケアラーズカフェ」の必要性をカフェを通してどのような話をし、発言や利

用結果がどうだったか、更にこれから運営していく上で何が必要なのか等分かり易く話して頂きました。参加者は95名で、ケアラー自身、県議会議員、市議会議員、行政職員、民生委員、ケアマネや関心ある方々、ボランティア活動している人達等、多岐にわたった方々の参加がありました。過去6回の講座の参加者は70代以上が7割近くでしたが、今回は30代から60代が全体の6割と若い人達に関心をもってもらえました。

参加者の殆どが一生懸命メモをとるなど、大きな変化が見られた事が、講座を企画した者として印象に残っています。参加者の一人一人に何ができるか、何をすべきかなどを理解して頂



そろいのピンクのTシャツを着た実行委員の皆さん

けたと実感したのは、アンケート集計結果から見えてきました。今回の講座から学び得た事を基に、今後どう動くべきか等を会員皆で話し合いながら進めていきます。（介護サポーターズクラブ本庄 宮里充子）

介護サポーターズクラブ本庄  
a-miyasato-713@gt7.so-net.ne.jp

# 事務局だより

## 第2回埼玉県「ケアラー月間」開催される

ケアラー支援の啓発のために埼玉県の「ケアラー月間」が11月に行われました。2022年度は2回目であり、企業の協力が進みました。11月3日～9日までは武蔵野銀行本店でケアラー一人ひとりの生活を表現したパネルが展示されました（主催：埼玉県）。埼玉りそな銀行の4つの支店では、ヤングケアラーに関するパンフレット、チラシが展示され、来店客が持ち帰ることが可能でした。21日には、ヤングケアラー協会の宮崎成悟さん、きょうだいケアラーの藤木和子さん、タレントのハリー杉山さん（父親を10年間介護）のトークショーが行われ、若くしてケアラーになった葛藤やエピソードが語られました。



## 「埼玉県指定 NPO 法人」の更新をしませんでした

さいたまNPOセンターは2013年7月2日に「認定NPO法人」と「埼玉県指定NPO法人」の法人格を取得しました。2022年度は、それぞれの法人格が更新申請の時期です。

しかし、「指定NPO法人」の更新申請をしなかったため、10月18日付で「指定取消」となりました。理由は「指定」に関するメリットよりも事務手続きが重い現状から判断しました。「認定NPO法人」は更新予定です。寄付をした人への所得税、県民税の減免などの優遇措置は従来どおり変わりません。

## 助成金情報をお知らせします

下記は2022年11月29日現在の情報です。必ず、Webなどでご確認ください。

助成制度名	対象事業	主催	電話	メ切日
経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成	子どもの健全育成	(公財) ベネッセ子ども基金	042-357-3659	1月5日
住まいとコミュニティづくり活動助成	安心安全住環境	(一財) ハウジングアンドコミュニティ財団	03-6453-9213	1月10日
公益信託 今井記念海外協力基金	難民などの子ども支援	(NPO) アジア・コミュニティ・センター 21 (ACC21)	03-3945-2615	1月16日
赤い羽根福祉基金助成	若者の居場所作り	(社福) 中央共同募金会基金事業部	03-3581-3846	1月17日
助成認定制度	芸術文化普及	(公社) 企業メセナ協議会	03-5439-4520	1月20日
地域の伝統文化分野への助成	継承者育成	(公財) 明治安田クオリティオブライフ文化財団	03-3349-6194	1月31日
社会貢献基金助成	各種福祉事業	(一社) 全日本冠婚葬祭互助協会	03-3596-0061	1月31日
若者×ツナグバ	若者自立支援	(公財) マツダ財団	082-285-4611	1月31日
サイサン環境保全基金助成	環境活動事業	(公財) サイサン環境保全基金	048-643-1192	2月15日

発行／認定NPO法人・埼玉県指定NPO法人 さいたまNPOセンター

発行日／2022年12月22日 価格／200円

スタッフ／村田恵子・木村遊・新井治・大家けい子  
志村照子・小守谷律子・中妻祐子

住所／〒330-0056 さいたま市浦和区東仲町12-12、ツインハイツ102

電話／048-811-1666

e-mail／office@sa-npo.org URL／www.sa-npo.org/

ご不要の場合は発送を停止しますので、ご連絡下さるようお願いいたします。

## さいたまNPOセンター 事業案内

### 1. 市民活動相談

相談内容	料金(1時間あたり)
市民活動に関する相談	無料
NPO法人化等の専門相談(1時間)	正会員:1,000円 その他:3,000円
ヒアリング・視察	有料(応相談)

### 2. 講師を派遣します

NPO・市民活動、高齢者福祉や介護、まちづくり、広報講座など。

### 3. プロジェクターの貸出

3日間1,000円。

### 4. チラシの同封発送

「さんぽ」の発送に合わせて、貴団体のチラシ(A4またはA3二つ折)を同封します。

種別	料金
正会員	1枚につき5円、 または発送日のお手頃。
その他	1枚につき10円。

### 5. 埼玉市民活動メーリングリスト「Sanpo-ML」の運営

申込みは当センターアドレスへ。

## 会員の案内

#### ◆正会員(総会の議決権あり)

◇個人:10,000円

◇団体:10,000円を1口以上

◇企業など:50,000円を1口以上

#### ◆協力会員(総会の議決権なし)

◇個人・団体:3,000円を1口以上

\*\*\*

入会で希望の方は、下記口座にご入金  
お願いいたします。銀行振り込みの方は、  
入金後にご一報お願いいたします。

■郵便振替口座 00140-5-160006

(他金融機関からの振込用口座番号)  
〇一九(ゼロイチキュー)店(019)  
当座 0160006

■埼玉りそな銀行 浦和東口支店  
(普通) 3687619

特定非営利活動法人  
さいたまNPOセンター